

明治グループファームアニマルウェルフェアポリシー

私たち明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを踏まえて、社会的責任を意識した調達活動を行っています。サプライチェーンにおいて、人権や環境への配慮に加え、家畜の生命の尊厳と人道的な取り扱いを重要視し、アニマルウェルフェアの向上を追求していくことは、持続可能な調達活動において、重大な社会課題のひとつであると認識しています。

私たちは、家畜とのより良い共生関係の構築を目指すため、国際獣疫事務局（OIE）がアニマルウェルフェアの指針として示した5つの自由（※）を推進する取り組みを支持します。

- （※）5つの自由
- ① 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
 - ② 恐怖および苦悩からの自由
 - ③ 物理的、熱の不快からの自由
 - ④ 苦痛、傷害および疾病からの自由
 - ⑤ 通常の行動様式を発現する自由

私たちは、自らの事業における主たる原料である国産生乳に関して、以下の考えのもと、乳牛に関わるアニマルウェルフェアの向上を推進します。

1. 栄養

乳牛の成長と健康維持を促すためには、成長段階と産乳量に応じた適切な栄養素を含んだ良質な飼料と良質な水を過不足なく与えることが重要です。

飼養方法や飼養頭数に応じて、乳牛が飼料や水にアクセスしやすい給餌方法や給水設備に配慮し、すべての乳牛が必要な栄養素や水を十分に摂取できるように努めることが適切であると考えます。

2. 牛舎の環境と飼養スペース

牛舎の環境に関しては、乳牛が快適に生活できる状態を整えることが重要です。

牛舎内の通気性を良好にしたり、夏季には暑熱対策を講じたりするなど、乳牛にとっての快適性を追求していくことが適切であると考えます。

過密な飼養スペースは、移動、休息、摂食や飲水などの行動に支障をきたし、病気やけがの発生などの原因となります。

乳牛が目的に適合した行動を発現できるように、飼養方式の特徴に合わせて、十分な飼養スペースを確保することが適切であると考えます。

3. 管理方法

乳牛にとって飼養環境が快適かどうかを確認するためには、乳牛の健康状態を常に把握しておくことが重要です。

乳牛1頭ごとの健康観察に努め、特に子牛や分娩前後の乳牛は、より観察しやすい環境に置き、病気やけがの発生予防に努めることが適切であると考えます。

(1) 病気、事故などの措置

病気やけがの発生を未然に防ぐには、日常の飼養管理が最も重要です。病気にかかったり、けがをしたりしているおそれのある乳牛が確認された場合は、可能な限り隔離などを行い、迅速に治療を行うことが必要です。

抗生物質の使用は、獣医師などの指導のもと、必要最小限の治療時に投与されることが望ましいと考えます。

農場内にて乳牛を殺処分することが決定された場合は、生命の尊厳を最大限に尊重し、できる限り苦痛を与えないよう、獣医師などの指導のもと、適切な対応をとるべきであると考えます。

(2) 除角

除角は、乳牛の攻撃性の低減と管理者の安全確保のために重要な措置ですが、乳牛にとっては苦痛とストレスを伴う行為であることを認識しています。

除角を行う際は、獣医師などの指導のもと、可能な限り苦痛を生じさせない方法を取り、必要に応じて麻酔薬や鎮痛剤などを使用することが望ましいと考えます。

実施時期については、除角によるストレスを最小限にするため、本格的な角の形成前に実施し、また、実施後は乳牛を注意深く観察し、化膿などが見られる場合は速やかに治療を行うことが適切であると考えます。

(3) 断尾

乳牛の断尾は、牛体や乳房の汚れにより生乳が汚染されることの防止や、尾による管理者の負傷防止などを目的として行われる慣行があります。

しかしながら、断尾を行うことにより、乳牛が害虫を追い払うことができなくなり、ストレスを感じるなどの側面もあることから、やむを得ない場合を除き、断尾は実施しないことが望ましいと考えます。

(4) 乳牛の輸送

乳牛の輸送時には、乳牛の健康と安全を保持し、乳牛を丁寧に取り扱い、乳牛にとって不快

な環境を回避することが重要です。

乳牛の輸送時間を可能な限り短くするための計画や準備など、適切な対策を講じ、輸送にかかるストレスを可能な限り軽減することが適切であると考えます。

乳牛の健康を保持するためには、乳牛が快適に生活できるようにすることが大切であり、日常的なきめ細かい健康管理や飼養環境の改善などが必要です。

私たちは、積極的に農場を訪問し、生産者と対話しながら、乳牛に寄り添った取り組みを行うことによって、乳牛のストレス低減や快適性の向上を支援していきます。

私たちは、アニマルウェルフェアの大切さを積極的な情報発信によりお客さまに広く伝えていくとともに、生産者を含む酪農乳業界の各団体と協力し、業界全体でアニマルウェルフェアを向上させる取り組みを推進していくことで、持続可能な酪農乳業の実現を目指します。

制定 2021年9月